

第3学年2組 図画工作科学習指導案

授業日 平成27年9月30日(水) 授業A

授業者 附属新潟小学校 教諭 堀田 雄大

会場 多目的ホール

1 題材名 透明トンネルが大変身！ ～形や色を、写して、透かして～

2 本題材の価値

本題材は、学習指導要領第3学年及び第4学年の内容A表現(1)に準拠して設定したものである。

- (1) 材料や場所などを基に造形遊びをする活動を通して、次の事項を指導する。
- ア 身近な材料や場所などを基に発想してつくること。
 - イ 新しい形をつくるとともに、その形から発想したりみんなで話し合ったり考えたりしながらつくること。
 - ウ 前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどしてつくること。

第3学年及び第4学年の造形遊びは、材料や場所にあるものの形や色などを基に造形的な活動を思い付いて表現していく。ここで大切なのは、子どもに材料だけでなく、場所の特徴からも発想できるようにし、思いや意図をもって表現を行わせることである。そして、思いや意図を実現するために、形や色などの表し方を工夫し、よりよい表し方を見いだせるようにすることが必要である。

本題材では、カラーセロファン、ミラーシート、カラービニル紐を材料とし、養生用ビニルシートがトンネル状に張られた空間を場所とする。想定する造形的な活動は、養生用ビニルシートが張られた空間を、「みんなが入りこみたくなる、楽しさや面白さがあふれる場所」にするために、透過性を生かした材料を用いて飾りを付けたり、模様を付けたりして、思い思いの空間を表すことである。

中学年の子どもは、想像を膨らませて自分なりの創作話を考えたり、物語の主人公になりきって空想して遊んだりすることを好む傾向がある。また、思い付くままに自由に絵を描くだけでなく、自分の好きな絵を模写することを楽しんだり、模写したものに自分なりのアレンジを加えて形や色を工夫したりすることを思い付くことができる。

このような特性を踏まえ、本題材では次の点に価値を置く。

- ・養生シートの透過性を生かして、身近にあるものの形を写し取ったり、材料を重ねて色づくりを楽しむことで、子どもが「〇〇を表したい」と思いや意図をもって表したいものを発想できること。
 - ・写し取った形や、重ね合わせた色を様々なものに見立てることで、既知の知識や経験を基に想像を膨らませ、カラフルな材料や、鏡のように反射する材料を組み合わせ、現実には存在しないような空間の様子を空想し、楽しみながら表現できること
 - ・材料と場所を組み合わせた表し方を交流する場を設けることで、自他の表し方を新しい発想の契機として、子どもがよりよい表し方を見いだしていけること
- 本題材における材料と場所の特徴は次のとおりである。

材料 (カラーセロファン・ミラーシート・カラービニル紐)

- ① 比較的容易に入手でき、子どもが一度は目にしたり触れたりしたことがあると期待できる。
- ② 日常生活に身近な材料であり、子どもがその使い方を知っている。

カラーセロファン・・・飾り付けをするときなど、カラフルにしたいところに貼ったり、包んだりする。
ミラーシート・・・鏡と同様に、自分の姿を映すことができる。万華鏡などで中に使われている。
カラービニル紐・・・結び付けて何かをつなげるときに使う。

- ③ 次のような特徴がある。

カラーセロファン・・・面材としての特徴：透過性があり、重ねると様々な色合いになる。広げて貼る、包むなどの行為が可能である。
ミラーシート・・・面材としての特徴：鏡と同様に、ものを映り込ませることができる。シートであるため、切る、ちぎる、折ることにより、加工が可能。貼ることの他に、筒状に丸めるなどの行為ができる。
カラービニル紐・・・線材・塊材としての特徴：結んでつなげる・垂らしてひらひらさせ

る・丸めて付けるなどの行為が可能である。

④ 色・形・イメージの観点から

カラーセロファンは、青・赤・黄・緑の4色を用意する。重ねて様々な色をつくることができるため、自分のイメージするものに合った色を選択することができる。

ミラーシートは、一人に4つ切りの大きさのものを用意する。ミラーシートは、映り込んだものによって、色などの様子が変わる。また、映り込ませたいもの（例えば自分の顔や、特定の部分）を考えることで、どんなものをどのように映り込ませようか工夫することができる。折り曲げることで、映り込み方も変わり、形も多様に生まれる。

カラービニル紐は、様々な色を用意する。線や塊として使うことによって、面での表現に多様性が生まれることが期待できる。

⑤ 色・形・イメージを補う材料

細かい表現を補う材料として、水性ペンを用意する。カラーセロファンやミラーシートに書き込むことで、色や形の工夫を補うことができる。

養生用ビニルシートがトンネル状に張られた場所

- ① 比較的容易に入手でき、子どもが一度は目にしたり触れたりしたことがある道具である。
- ② 日常生活に身近な材料であり、子どもがその使い方を知っている。

養生用ビニルシート・・・ものを覆う。ものを包む。

③ 次のような場所の特徴がある。

空間的な特徴・・・身体全体を使った形を写し取れるだけの広さ。
体感する特徴・・・透過性があり、シート越しにある形を写し取ったり、材料を重ねて透かして見たりすることができる。

養生用ビニルシートは、10～12人の子どもが入れる程度にトンネル状に3本張る。一度は通ったことのある場所のイメージから、子どもの生活経験を想起しやすくする。また、透明であることから、子ども自ら「写す」「透かす」といった特徴をつかみやすい。

④ 材料とのつながり

カラーセロファンも、透過性がある。透明色の養生用ビニルシートと貼り合わせることで、多様な色の重なりを表現できる。ミラーシートは、貼り合わせることで部分的に「映り込む場所」をつくることができる。子どものイメージに合わせて、「ここには〇〇が映り込むようにしましょう」などと表し方を工夫する姿が期待できる。両材料は共通して、シートという二次元的な表現材料ということである。スタンドグラスやコラージュで表すように、貼ったり重ねたりする行為の繰り返しにより、発想を広げ、自分のイメージに合った表現を実現するために、様々な表し方の工夫をすることができる。また、カラービニル紐は、線や塊として、三次元的な表現材料として活用できる。材料と材料を結び付けるといった発想が可能である。

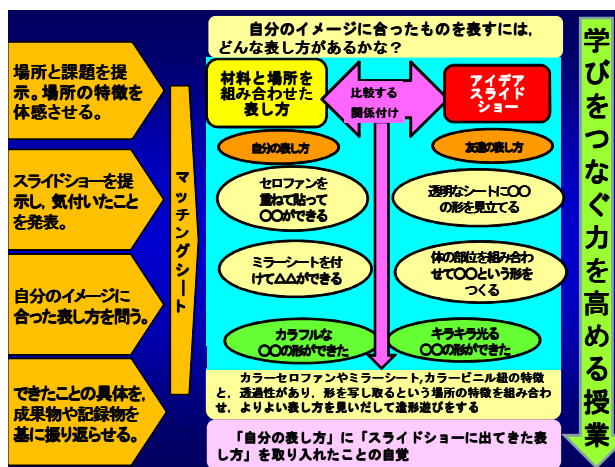
3 本題材で目指す姿と

「中核的な知識や技能」「学びをつなぐ力」

(1) 目指す姿

カラーセロファンやミラーシート、カラービニル紐という材料と養生用ビニルシートが張られた場所との特徴を組み合わせ、よりよい表し方を見いだして表す子ども

具体的には「みんなが入りたくなる、不思議な世界が広がるトンネルにするために〇〇をつくった。〇〇には、カラーセロファンやミラーシートを貼って、△△な〇〇が表せた。工夫した点は、カラーセロファンを重ねて様々な色にしたこと、ミラーシートでキラキラさせたことだ。カラービニル紐は、上の方から垂らしてつけてひらひらさせたところがうまくできた。この工夫は、☆☆さんがやっていたことをもとにして、自分なりに考えてできた」という姿。



(2) 「中核的な学習内容」

カラーセロファンやミラーシート，カラービニル紐という材料と養生用ビニルシートが張られた場所との特徴を組み合わせたよりよい表し方

(3) 「学びをつなぐ力」

- ① 関係付けるすべを用いて，既存の知識や経験を基に，材料と場所とを組み合わせた表し方（情報）を収集し，表したいもののイメージと，その形や色を考える力
- ② 比較するすべや関係付けるすべを用いて，自他の表し方を基に，写し取って発想した表したいものの形や色を工夫して表す力

4 指導計画 全3時間（90）

単元カード参照

5 指導の構想

まず，子どもに材料（カラーセロファン・ミラーシート・カラービニル紐）を提示し，触らせ，どんなことができるか問う。子どもは，それぞれの材料の特徴を基にして，できる行為を考える（C0）。気付いた行為は，子どもの言葉でまとめておく（材料の「マッチングカード」）。このような子どもに，次のように働き掛ける。

働き掛け1

養生シートが張られた場所と課題（「不思議な世界が広がるトンネルにしよう」）を提示する。

問いをもたせるための働き掛けである。まず，養生用ビニルシートがトンネル状に張られた透過性のある場所を提示する。このような特徴により，子どもが形を写し取ったり，材料を重ねて透かしてみたりしながら表したいものを発想するきっかけをつくる。

場所の提示後，この場所を「みんなが入りこみたくなる，不思議な世界が広がるトンネルにしよう」と課題を提示する。そして「実際に入って，どんな場所か確かめてみよう」と提案し，子どもに場所の特徴を体感させる。子どもは，養生用ビニルシートの透過性によって，形を写し取れることや，材料を重ねて様々な色合いを出せそうだとすることに気付く。気付いた行為は，子どもの言葉でまとめておく（場所の「マッチングカード」）。そこで材料を与え，活動させる。子どもは，写し取った形や，セロファンなどを重ねたときの色などから表したいもののイメージをもち，思いに合わせて材料を選択し，カラーセロファンやミラーシートを付けたり，カラービニル紐を垂らしたりする。

その後活動を続けると，「まだまだいろんなことができそうだけれど，どんな表し方があるかな」などと考える子どもが出てくる。このような状態を問いをもったと判断し，次のように働き掛ける。

働き掛け2

材料と場所の特徴を組み合わせて活動する様子（アイデアスライドショー）を提示し，気付いたことを発表させる。

新しい発想や表し方の工夫に気付かせるための働き掛けである。子どもを大型テレビの前に集合させる。ここで，**材料と場所を組み合わせて活動する写真や動画（「対象」）**を，スライドショーで提示する。ここではスライドショーを全体に示し，数名にどのような活動をしていたのか気付いたことを発表させる。子どもは，スライドショーを見たり友達の発表を聞いたりしながら，比較するすべを用いて自分には無かった友達の表し方や，材料の新しい表し方，場所での新しい表し方に気付く。

働き掛け3

材料と場所の「マッチングシート」を提示し，自分のイメージに合う表し方を問う。

よりよい表し方を見いださせるための働き掛けである。スライドショーから様々な表し方に気付いた子どもに，この際，材料と場所の「マッチングカード」を提示する。これは「貼る」「重ねる」「丸める」「折り曲げる」「垂らす」など，カラーセロファンやミラーシート，カラービニル紐の特徴や，「上からうつす」「下に潜ってうつす」「重ねてうつす」といった場所の特徴を子どもの言葉でまとめたカードである。そして，「自分のイメージに合う表し方はどれか」と問う。子どもは，「貼り付けて，重ねる」「カラービニル紐を垂らして付け，下から見える形をうつす」など様々な表し方の中から，自分がやってみたい表し方を選択し，よりよい表し方として見通しをもつ。

そこで，再度活動に取り組みさせる。すると子どもは比較するすべや関係付けるすべを用いて，これまでの自分の遊び方やつくり方に，友達の遊び方やつくり方を取り入れて，よりよい表し方を見だし，さらにつくったり遊んだりする。

「学びをつなぐ力」の有用性の自覚を促す働き掛け

活動を通してできたことを成果物や記録物を基に振り返らせる。

学びをつなぐ力の有用性の自覚を促す働き掛けである。振り返りワークシートを配付し、「①材料を使ってどんなことをしたか」「②工夫したところはあるか」「③工夫のもとになっているものは何か」という視点で振り返りを記述させる。こうすることで、子どもは「みんなが入りたくなる、不思議な世界が広がるトンネルにするために〇〇をつくった。〇〇には、カラーセロファンやミラーシートを貼って、△△な〇〇が表せた。工夫した点は、カラーセロファンを重ねて様々な色にしたこと、ミラーシートでキラキラさせたことだ。カラービニル紐は、上の方から垂らしてつけてひらひらさせたところがうまくできた。この工夫は、☆☆さんがやっていたことをもとにして、自分なりに考えてできた」などと振り返り、学びをつなぐ力を自覚する。このようにして、**カラーセロファンやミラーシート、カラービニル紐という材料と養生用ビニルシートが貼られた場所との特徴を組み合わせ、よりよい表し方を見いだして表す子ども（Cn）**となる。

6 本時の構想（本時 1 / 3時間）

(1) ねらい

比較するすべや関係付けるすべを用いて、カラーセロファンやミラーシート、カラービニル紐といたった材料の特徴と、透過性があり、形が写せるという場所の特徴を組み合わせ、よりよい表し方を見いだしてついたり遊んだりすることができる。

(2) 主張（展開）3Q（60分）

このように子どもに（C0）

- カラーセロファン、ミラーシート、カラービニル紐の特徴を知っている。
 - ・私は以前、カラーセロファンを組み合わせでカラフルな〇〇をつくったことがある。
 - ・カラーセロファンは透明で、重ねるといろんな色ができるよ。
 - ・ミラーシートを使うのは初めてだ。けれど、鏡と一緒に、いろんなものが写るよ。
 - ・ミラーシートは、光の当たり具合で、キラキラしたりものが歪んで見えたりして面白い。
 - ・カラービニル紐は、何かに結び付けてひらひらさせたことがあるよ。
 - ・カラービニル紐をぐるぐる丸めてボールみたいにしたことがある。

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 養生用ビニルシートが四方トンネル状に張られた場所を提示する。
 - ・説明「今日は、こんな場所で活動します」
 - ・指示「何がどのようにになっているか、よく見てみましょう」
 - ※ ビニルはトンネル状に囲って張ったものを3本用意する。10～12人程度が入れる大きさにする。
 - ※ 何があるか、どんな場所になっているか子どもの言葉で発表させる。
- 課題を提示する。
 - ・説明「大きなビニルシートが張ってありますね。そう。トンネルのようですね。今日はこのシートが貼られた場所を『みんなが入りこみたくなる、不思議な世界が広がるトンネル』にしてみましょう」
 - ※ 「みんなが入りこみたくなる、不思議な世界が広がるトンネルにしよう」と板書する。
 - ※ 補助発問「トンネルの中には、どんな世界が広がっているのだろう」
 - ※ 数人発表させ、不思議な世界の具体を話させる。
 - ※ 子どもの発表をまとめ、3本のトンネルそれぞれに、「不思議な〇〇の世界」というテーマを付ける。
- トンネルの中に入らせ、場所の特徴を体感させる。
 - ・指示「みんなも実際、トンネルに入って、どんな場所か確かめてみましょう」
 - ※ 2分程度時間をとり、「トンネル」に入り、触ったり近づいて見たりするように促す。
 - ※ 2分経過したら、一旦集合させ、気付いたことを発表させる。
 - ※ 子どもの気付きを「マッチングカード」に短い言葉でまとめる。
- 材料を与え活動に入らせる。
 - ・説明「ビニルが透明だと、トンネルの中や外からいろいろなことができそうだと考えている人がいたようですね。それでは、ここを不思議な世界が広がるトンネルにしてみましょうね。材料はここにありますよ」
 - ※ カラーセロファンとミラーシート、カラービニル紐を見せる。
 - ※ 補助「まずは様々なところから、トンネルを見てみましょう。どんなトンネルになるか、想像しながら表していきましょう」

このようになり (G1)

- 場所を見て、何があるか、どんな場所であるか気付いたことを話す。
 - ・大きなビニルシートがあるぞ。
 - ・ピンと張ってある。
 - ・奥まで透けて見えるよ。
 - ・透明なシートが、ピンと張ってあります。
- 課題を知り、不思議な世界をイメージする。
 - ・不思議といったら、魔法の世界。魔法が使える世界なんてどうだろう。
 - ・宇宙のような世界。ブラックホールがあったり、ユーフォーが飛んでいそうな世界。
 - ・夢のような世界。空を飛んだり、動物が話をしたりする世界がいいな。
- ビニルのトンネルに入って、透過性を活かしてできそうなことに気付く。
 - ・壁が透明なトンネルだね。
 - ・中からでも外が見えるし、外からでも中が丸見えだ。
 - ・壁にセロファンとか付けると、飾りになっていいんじゃないかな。
 - ・透明だったら、形を写し取ることもできそうぞ。
 - ・実際にやってみると、いろいろな形は組み合わせ方で別の形になりそうぞ。
- 自分の表したいイメージに沿って、カラーセロファンやミラーシートをつかって活動する。
 - ・魔法でキラキラした世界にしたいな。カラーセロファンを壁に貼っていこう。重ねて貼ると、光が入ったとき、色が透けて見えてきれいだな。
 - ・カラービニル紐を垂らして付けて、カーテンみたいにしようかな。ここにユーフォーを付けて、ひらひら揺れるのも、いい感じだ。
 - ・いろいろな形を写し取ることができたぞ。ミラーシートを貼って面白くなった。この形を僕は○○のようにしよう。まだまだいろいろなことができそうぞ。けれど、他にはどんな表し方があるかな。

このように働きかけると【働き掛け2】

- 材料と場所の特徴を組み合わせる活動の様子をスライドショー（「対象」）を提示する。
 - ※ 事前に、あと「○分経ったら、一旦集合します」と全体に声を掛ける。
 - 説明「いろいろなものができてきたようですね。これまでの活動を記録しておきました」
 - 指示「一度集まって、活動の様子を見てみましょう」
 - ※ 大型テレビに、スライドショーを写す。
- スライドショーを見て気付いた点を発表させる。
 - 発問「スライドショーを見て気付いたことは何ですか」
 - ※ 子どもが気付いたことを発表した際、「○○さんは△△していてすごい」など、よさや面白さに気付く発言については、表現をした本人に「このスライドショーのときはどんなことを考えていたのか」と問い返す。

このようになり (G2)

- スライドショーを見て、自分の表し方に改めて気付いたり、自分のしていなかった友達の表し方に気付いたりする。
 - ・そうか。カラーセロファンをたくさん重ねるだけじゃなくて、少しずつずらして付けると、虹色みたいになって面白そうぞ。
 - ・ビニルシートに穴を開けて、そこにカラーセロファンを詰めるように付けても面白そうぞ。
 - ・○○さんは、カーテンを付けていてきれいだな。たくさん紐をつなげて垂らして付けている。ぼくの○○も、付け方を工夫して付けるともっとよくなるかもしれない。
 - ・○○さんは、ミラーシートを折り曲げて使っている。光が当たったり、見る角度を変えたりすると、映るものの見え方が違う。面白そうだからわたしもやってみようかな。
- 自分の表し方や友達の表し方について、どのような行為や工夫を行っていたのか話す。
 - ・ぼくはセロファンを少しずつずらして付けました。なぜかという、その方がたくさん色でカラフルな○○にできるからです。カラーセロファンを重ねる特徴を使いました。
 - ・わたしはビニルシートに体をくっつけて形を写して、そこにセロファンを付けました。セロファンの中をよく見ると、そこから見える景色がいつもと少し違って見えるので面白いと思いました。ビニルシートの透ける特徴を使って遊びました。
 - ・ぼくはカーテンをつくりました。ビニル紐をたくさん垂らして付けました。垂らすときは、ひらひらするように付けるとすてきな感じになります。重ねて貼ったり、折って付けたりする特徴を使っています。

このように働き掛けると【働き掛け3】

- 自分のイメージに合う表し方を選ばせる。
 - ※ 材料と場所の「マッチングカード」を提示する。
- 説明「ここに、みんなが気付いたことをまとめた『マッチングカード』があります」
- 発問「これからさらに活動を続けます。今、みんなのイメージしているものに合った表し方はどれですか」
 - ※ 「マッチングカード」を基に、選択させる。
- 活動を継続させる。
- 指示「それでは、活動を続けましょう」

このようになり (C3)

- 自分のイメージに合った表し方を選択する。
 - ・ぼくも体の形を写して、そこに何か付ける表し方にしようかな。
 - ・わたしは重ねて貼ると、折って貼って立体的にするのがよさそうだな。
- 自分の気付いた新しい表し方を取り入れ、よりよい表し方を見いだして表す。
 - ・〇〇さんのやっていた、ずらしてセロファンを付けていく方法をぼくもやってみよう。ぼくのつくった△△を虹色にして、きれいにしていこう。
 - ・わたしの考えた□□に、段々にミラーシートを付けよう。少しずつ小さく切って、一枚ずつ段々になるように付けよう。少し揺らすと、キラキラして、きれいで不思議な世界になりそうだ。

このように働き掛けると【「学びをつなぐ力」の有用性を自覚を促す働き掛け】

- 振り返りワークシートを配付し「①材料を使ってどんなことをしたか」「②工夫したところはるか」「③工夫のもとになっているものは何か」という視点で振り返りを記述させる。
- ※ このワークシートの記述により、Cnを検証する。

このようになる (Cn)

- (活動後) 自分の表現の過程を振り返り、よりよい表し方の具体を記述する。
 - ・みんなが入りたくなる、不思議な世界が広がるトンネルにするために〇〇をつくった。〇〇には、カラーセロファンやミラーシートを貼って、△△な〇〇が表せた。工夫した点は、カラーセロファンを重ねて様々な色にしたこと、ミラーシートでキラキラさせたことだ。カラービニル紐は、上の方から垂らしてつけてひらひらさせたところがうまくできた。この工夫は、☆☆さんがやっていたことをもとにして、自分なりに考えてできた。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、「中核的な知識や技能」を獲得することができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を発揮することができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」の有用性を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3において、カラーセロファンやミラーシートの特徴と、透過性があり、形が写せるという場所の特徴を組み合わせ、よりよい表し方の基準に当てはまる表し方を見いだしたかどうかを、活動の様子や発言から検証する。

よりよい表し方の基準。C1の姿と比べて、以下のような工夫を付加していること。

- ① スライドショーで見られたものと同様の表し方を用いて、カラーセロファンやミラーシート、カラービニル紐を付加したり付け替えたりしている。
 - ② 透過性を生かして、写し取った形に合わせてつくったり遊んだりしている。
- ※上記①②の両方の工夫が見られたら、よりよい表し方を行っていると思なす。

- ② 働き掛け3において、スライドショーに出ていた表し方を取り入れて、上記のよりよい表し方の基準に当てはまる表し方をしてしているかどうかを活動の様子や発言から検証する。
 - ③ 「学びをつなぐ力」の有用性の自覚を促す働き掛けにおいて、比較するすべや関係付けるすべを用いて、表したいもののイメージをもち、これまでの自分の表し方に、スライドショーに出ていた表し方を取り入れて活動したことを自覚しているかどうかを、振り返りのワークシートから検証する。
- 上記①②③全ての検証を通過したら、表れありと判断する。

